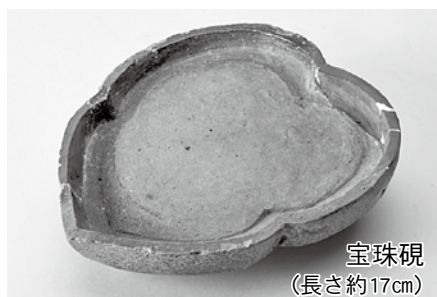




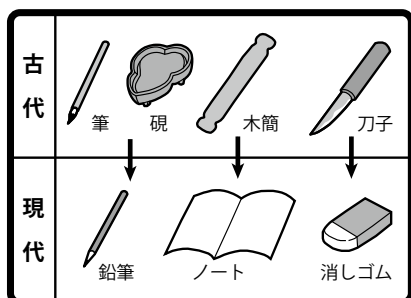
牛久のお宝

問 文化芸術課(中央生涯学習センター内) ☎871-2300

第4回 古代の文房具



古代の役人は、硯で墨をすり、筆で木簡とよばれる木の札に文字を書いて事務を行ないました。当時、紙は貴重品で、長く保存するもの以外は木簡を使い、書き直す時は刀子とよばれるナイフで木簡の表面を削って消しました。姥神遺跡(奥原町)では、昭和六三年(平成元年)の筑波南奥原工業団地造成に伴う発掘調査で、平安時代の住居跡から宝珠硯(市指定文化財)や刀子が見つかっています。宝珠硯は、須恵器で作られた宝珠形の硯で、底面に方形の脚が三箇所取り付けられています。産



地が愛知県(さなげよう)の猿投窯(さなげよう)のもので、県内でも珍しい貴重な資料です。役人が使用したと思われる道具が、姥神遺跡で出土していることから、信太郡(したぐん)常陸(ひだろ)国(くに)信太郡(したぐん)常陸(ひだろ)の役所との関連が考えられます。

◆今回紹介した宝珠硯は、かっぱの里ギャラリー(かっぱの里生涯学習センター内)で展示中

里山の樹木

問 都市計画課
☎内線2524

シラカシの樹幹: 柏田神社境内
平成24年9月13日撮影



第22回

シラカシ

シラカシは福島県以南に分布する常緑広葉樹で、市内では斜面などに自生しています。身近には街路樹・公園樹や屋敷林として植えられています。和名は材がアカガシに比べ白いことにより、カシ類は葉に特徴があ

果実: 平成23年10月2日撮影



り、シラカシは小型で細長く先端が尖り上半部に浅い鋸歯、表面は深緑色で光沢があり裏面は灰緑色で白っぽく見えます。雄花は新枝の下部から出た短枝から垂れ下がり、その上部に直立の雌花がつきます。果実(ドングリ)は開花年の秋に成熟します。樹皮は生長に連れて灰色から灰黒色となりクロガシの別名もあります。また、葉の形からホソバガシともいわれます。

※牛久の里山樹木ハンドブック 62ページ掲載。本の問い合わせは牛久自然観察の森 ☎874・6600まで。

【資料提供】NPO法人うしく里山の会(文章: 羽賀正雄、写真: 樹幹戸塚昌宏・(果実)渡辺泰)

文芸さろん | 神無月

青空に稲穂ひかりて筑波山
お隣もそのお隣もトマト熟れ
夜光虫まとひて見上ぐアンタレス
夜光虫波に消されて母の顔
路地通りサンマ焼く香に鐘も鳴る
長寿会月に一度の例会に
人から学び感謝のきもち

枝さん
ハイクタッチ サッコ



◀竹内さん

和多田さん
我氏
倭文子
静枝
岡村さん

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など
【あて先】〒300-1292牛久市中央3-15-1
「広報うしく文芸さろん」係 FAX: 873-2512
E-mail: kouhou@city.ushiku.ibaraki.jp
【記載事項】作品、氏名、電話番号、匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)

「牛久の巨樹」発売中 ※お求めは都市計画課まで(1,200円)